

博物館と学芸員のおしごと

柴 正博



ふじのくに地球環境史ミュージアム客員教授
柴 正博氏

博物館はどのようなところでしょうか。また、そこで働く学芸員はどんな人で、どのような仕事をしているのでしょうか。多くの方は、博物館では展示室しか見ることはできませんが、それと同じかそれ以上の広さの裏側（バックヤード）では、いったいどのようなことが行われているのでしょうか。

博物館は、世界には 4 万館以上もあり、日本だけでも 5,000 館以上もあります。そこで働く学芸員とは、博物館の資料の専門家で、資料の採集や保管、研究や展示、さらに教育などを行います。私は博物館に勤めて、展示物のメンテナンスから展示室の掃除、照明の交換、小さな展示から博物館全体の展示などの企画・設計と施工、ポスター・パネル・看板の作成とイラストのデザイン、毎年の特別展の企画・設計・作成・実施、標本の製作とそれらの登録・保管、映像番組の作成、サマースクールや館内案内、体験学習などの教育活動、そしてオーディオ機器や機械の整備と組み立て、コンピュータプログラムやホームページの作成、博物館の内外でのさまざまな委員会活動、研究報告や普及誌の執筆と編集、パンフレットの編集、その合間に資料収集と調査研究、さらに総務や広報、経理事務、最

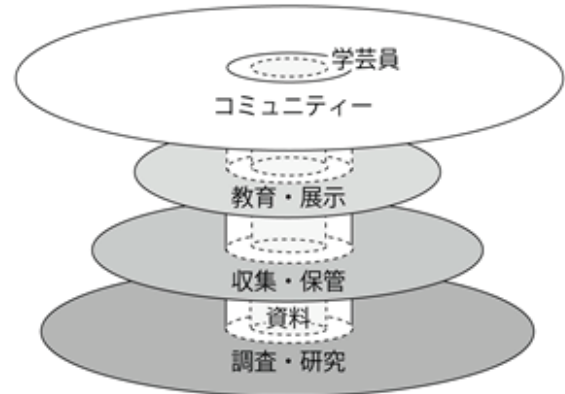


図1 博物館の機能

中央に「モノ」を立てて、それを学芸員が包み、下から「調査・研究」、「収集・保管」、「教育・展示」、「コミュニティ」が重なる立体的な構造。

後は運営を担う学芸課長、そして大学や他の教育機関で非常勤講師まで行ってきました。

日本の博物館学芸員は、このように博物館に関するさまざまな仕事をするので、自分たちのことを「雑芸員」と呼んでいます。私は、博物館で学芸員として勤務し、まさに「雑芸員」のごとく博物館に関する雑多な仕事をほぼすべてやってきました。「雑芸員」は仕事を雑にするのではなく、博物館における雑多なすべての業務を、どれもプロフェッショナルとして行います。しかし、ひとりの人間がこれらすべてを完璧に行うことは不可能であり、そのつど多くの職場の仲間や学生たちに助けられていました。

博物館は、国際博物館会議（ICOM）の定義によれば、「社会とその発展に貢献するため、有形、無形の人類の遺産とその環境を教育、研究、楽しみを目的として収集、保管、調査研究、普及、展示する公衆に開かれた非営利の常設機関。」とされ、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）の勧告では「収蔵・研究・展示を系統だてて継続し、後世に伝える業務を遂行する。」とされています。

すなわち、博物館は利用されるための構造物である「施設」ではなく、ある資料を収集

保管し研究して展示することを系統だって継続して行く「機関」になります。しかし、日本における博物館は、一般に利用する側に主体のある教育施設ないし公共のレジャー（余暇活用）施設とされていることから、展示や教育行事が優先され、研究や資料収集及び保管が顧みられない状況にあります。博物館は単なる「展示施設」または「教育施設」ではありません。ある研究対象の「モノ」についての「研究機関」であり、調査・研究をして資料や標本を収集し継続的に保管し、それをもとに教育・展示を行う複合機関であり、その「モノ」に関して人の集まる場（Community site）であると考えます（図1）。

日本における博物館は、一般に利用する側に主体のある教育施設ないし、公共のレジャー（余暇活用）施設とされていることから、現在でも博物館の職場では以下のような状況が多くみられます。

- * 展示や教育行事が優先される。
- * 研究や資料収集及び保管が顧みられない。
- * 学芸員が十分に配置されない。
- * 学芸員の地位や専門性が認められない。
- * 学芸員は展示物の製作とそのメンテナンス及び教育活動がおもな業務であると考えられている。
- * 地方公共団体の学芸員の多くは行政職または教育職であり、数年で他の部署に異動することがあり、計画的な収集活動などの博物館業務ができない。

日本の博物館はこれまで行政が住民の意思とは別に「箱モノ」的な施設として設置してきたことが多く、そのため最近では住民や行政から「博物館は無駄な箱モノ」の象徴とされることもあります。そして、経済不況と少子化という最近の社会現象の中で以下のような事態も進行しています。

- * 財政難や市町村合併などから博物館の経費や人員の削減、統合あるいは廃止。
- * 利用者数や収益率をもとにした経済効果のみに偏った博物館評価制度の導入。
- * 博物館の機能を無視した、「施設」を管理するための指定管理者制度の導入。

そして、「モノを系統だって保管して後世に伝える業務を遂行するべき」博物館の多くが、経済的不況の中、配賦予算や運営資金の確保が厳しく、今や閉館し、または閉館の危機に瀕しています。その原因の多くは、わが国では博物館が単なる「展示施設」または「教育施設」として理解されてきたことにあると思われる。

博物館は、本来あるテーマで集められた「モノ」を恒久的に保管する「蔵」です。そのため、「モノ」のない博物館は博物館ではありません。それと同様に、その「モノ」に関する専門家である「学芸員」のいない博物館も博物館ではありません。そして、学芸員の専門分野とそのスキルでその博物館の内容と質が決まります。すなわち、学芸員の専門性と個性、そしてそこで学芸員が何を行うかでその博物館の内容が決まります。また、博物館はある「モノ」に関しての研究・収蔵・教育のコングロマリット（複合機関）であり、地域の人々のための研究・収蔵・教育機関である博物館は、さらに研究者や地域の人々もまきこんで立体的、そして地域にとどまらず地球的（グローバル）というように発展していかななくてはなりません。その意味で博物館の学芸員は、その「モノ」に対しての専門家（研究者）であることはもちろん、教育者であり、活動のリーダーまたはマネージャーでなくてはなりません。

博物館は、そこを訪れる人が何らかの期待（アジェンダ）をもっていようとまいと、自分がそれまで知らなかった「モノ」や体験に出会うことができる、楽しくてすばらしい場所です。みなさんが、これから博物館でより楽しく有意義な博物館体験をするためにも、みなさんには博物館のことや学芸員の仕事についてよく知っていただけたらと思います。そして、さらに博物館を好きになっていただき、いろいろな「モノ」に興味をもって、これからの人生を豊かにしていただければと思います。また、同時に博物館のよき理解者、支援者として、これからも博物館を継続して存続させるための力になっていただけることを期待いたします。